

Vol. 1

NEVER

編集・五味亜矢子、松浦千恵美

11:30 KICKOFF

日本体育大学

VS 亜細亜大学

13:30 KICKOFF

明治大学

VS 法政大学

代替決定方法

日体大(1部8位)VS亜細亜大(2部1位)

<日体の勝>

日体は1部に亜細亜は2部にそれぞれ残留

<亜細亜の勝>

日体は2部に降格、亜細亜は1部に昇格

<引き分け>

再試合(来週中に開催)

<再試合・再度引き分け>

日体は1部に亜細亜は2部にそれぞれ残留

明治大(1部7位)VS法政大(2部2位)

<明治の勝>

明治は1部に法政は2部にそれぞれ残留

<法政の勝>

明治は2部に降格、法政は1部に昇格

<引き分け>

明治は1部に法政は2部にそれぞれ残留

The time has come !!



最近4年間の成績

- '93 2部リーグ2位(4勝2敗1分)
→入替戦 VS 東海大
1-0で勝利し1部昇格
- '94 1部リーグ8位(1勝6敗)
→入替戦 VS 日大
1-1、再試合0-0で1部残留
- '95 1部リーグ8位(1勝6敗)
→入替戦 VS 専修大
2-0で勝利し1部残留
- '96 1部リーグ8位(3敗4分)
→入替戦 VS 亜細亜大???

96秋季リーグPLAYBACK

関東1部リーグでの存在感をアピールするべく、オランダからアリー・スカンス監督を招いた日体大。昨年のチームが4年生主体だったため、リーグで試合経験を積んでいると言えるのは7:深沢と10:福盛田、そして11:相川くらい。新監督を迎えて、名実ともにゼロからのチームづくりとなった。

開幕戦は悪天候の中、敗れたもののディフェンディングチャンピオン・国士館大を苦した。悪いくせである立ち上がりからの失点で先手を取られたが、前半は一進一退。しかたし、簡単なトラップミスを重ねて、前半で追いつけなかったのが響いた。リーグ直前にエース・11:相川が負傷、FWに當ってキーパーしている間に2枚、3枚のサイドブレイクを……というアリー監督の戦術のカギとなるはずだった相川の戦線離脱で、ボールキープができる前線の選手がいなくなった。中盤と前線の連携が合わず、2、3節は駒澤、早稲田に大敗した。ボランチの深沢がディフェンダーに徹するようになって失点が減り、後半の4試合はすべて引き分け。「去年の1勝(6敗)よりも、この4分(3敗)の方が意味がある(9:内野)と選手は言い切るが、決定力があればもう少し違った結果になっていただろう。

Key Point

守る入替戦の戦いは心でいる日体大。とはいっても、3年連続で下部リーグと入替戦出場は、裏められたものではない。1部に昇格してはや3年。昇格の喜びを知っているのは、今や卒業を控えた4年生だけではない。大学スポーツの価値はそれだけではないといえ、そろそろ結果も残さなければならぬ。

日体の弱点は「勝負弱さ」にある。練習でできたこと、体目指しているサッカーが試合で発揮できない。今年の日々のベストマッチは、春の関東選手権1回戦の日大戦(1-0)、そしてリーグ直前に行われた天皇杯東京予選準決勝(3-1)の明治戦(3-1)。中盤から前線のパスも面白くなく、サイドの選手のオーバerrラップも交えて、みのある攻撃を見せた。そのようなサッカーが、リーグ戦ではほとんど見られなかった。深沢が時折前線へ、絶妙なパスを出しているが、リーグ中盤からは最終ラインへの攻められるほど引き気味に、ポジションを取ったため、前は攻められ手になってしまっただけで、深沢が守れば失点は少なくても、攻めようとするリスクを負う5:野坂は意識するが、完全に引手守る攻撃を90分間凌げられるか?腰痛で出場する相川の期待。中盤で17:坂本と深沢がどれどれか攻撃の絡めるか。リーグで果敢なプレーを見せた佐藤がベロの4:佐藤木にも注目。最終ラインからは、19:倉尾の大きな声でチームの士気を高める。「負けられないサッカーはできるよ」と、選手は言う。そう、入替戦は負けられない。しかし、「勝ちたい」という気持ちが大いにある(野坂)ことは間違いない。勝つためにはほしいものは「First Goal!」(アリー監督)。

日本体育大学

V S 亜細亜大学

亜細亜大学

最近4年間の成績

- '93 東京都2部リーグ2位
→入替戦勝利により東京都1部昇格
- '94 東京都1部リーグ5位(4勝3敗1分)
- '95 東京都1部リーグ1位(4勝1敗1分)
→入替戦 VS 東海大
0-0、再試合0-1で関東2部昇格
- '96 関東2部リーグ1位(4勝2敗1分、得失点差4による1位)
→入替戦 VS 日体大???

96秋季リーグPLAYBACK

昨年、東海大との入替戦で、再試合の末ロスタイムでの劇的なVゴールで関東2部リーグ初昇格を果たした亜細亜大。坂下監督のもと、わずか7試合のリーグでスターティングメンバーが同じ試合がほとんどないという、選手層の厚い、いい意味で「大学生らしくない」チーム。昨年入替戦でも、Vゴールを決めたエースの黄川田でさえ1戦目はベンチ、再試合も後半からの出場だった。1試合良かったら次は次の試合も出られるとは限らない。試合での調子より練習への取り組み方、各自が整えたコンディションによってメンバーを決める。そんな坂下監督の指導方針が、学生たちの自主性を引き出している。

最終節で東農大が敗れたことにより、得失点差により昇格1年目で見事優勝をさらった。初戦はリーグ前の韓国遠征の疲れもあり、専修大相手に攻め込みながらも引き分け。続く2節は東農大の浅い最終ラインにてこずり敗戦。「この試合がダメだったら下の入替戦も覚悟した」(坂下監督)3節の対慶応大戦で3-0と快勝し、「あれを勝ってふっきた」という9:黄川田の言葉通り皆に自信が戻り、雨上りのスリッパを6グラウンドで最終戦(対日大)に敗れたものの、3節から6節まで4連勝を飾った。

Key Point

猫の目のようにメンバー、そしてシステムが変わる亜細亜のサッカーの中で、中盤に確固たるポジションを確保している10:田高。彼からのパスがパワーサッカーを支える。中盤から前線は、キープ&ドリブルに優れる駒がそろい、テクニクを交えながら厚みのある攻撃をしかける。ただ、個々が珠にキス。11:猪瀬、14:赤尾らのスピードあるドリブルで、日体陣内に攻め込む力は十分にある。決定的な形をつくれるかどうか。8:斎藤弘のスルーパスの精度と、坂下監督も名前を挙げた黄川田の活躍がカギを握る。ディフェンスの中心は3:藤塚。最前線からのチェックが激しく、中盤でもこぼれ球をかなり拾える。2部の中ではテクニクに優れたチームに苦戦した。それと比較すると、日体大は与みし易しと考える面もある。しかし、「日体はねばられるチーム。そんなに甘くない。立ち上がって20分くらいでやられると苦しい戦いになる」(坂下監督)。

「去年も(入替戦を)2試合やって勝っているから」(1:菊地修主将)と、無失点でいけば点は取れるという自信を持っている。亜細亜の場合、1戦目を引き分けたら再試合は上位リーグチームが有利、とは言い切れないようだ。亜細亜のシステムは、型にはまったものではない。試合中にも、ゲームの流れ、相手の調子によって臨機応変にシステムを変える。本来DFの4:井川や5:小島を、その高さを生かしてFWとして使うこともある。次は何をやってくれるかと、見ていて楽しいチームだ。「観客と楽しむサッカー」を、勝負は大切だが、勝つことだけを求めているわけではない。「今年もらった(2部優勝の)カップを、来年ももらう必要はなければいい。しかし、今年ダメなら来年上がればいい。泰然自若の知将は、甘くない、と言ったあとにこう続けた。「上がっても不思議はない」。

最近4年間の成績

- '93 2部リーグ5位(2勝2敗3分)
→入替戦 VS 慶應大
3-1で勝利し1部昇格
- '95 1部リーグ7位(2勝4敗1分)
→入替戦 VS 東農大
3-1で勝利し1部残留
- '96 1部リーグ7位(1勝4敗2分)
→入替戦 VS 法政大???

96秋季リーグPLAYBACK

昨年、初の1部リーグでの戦いに苦しみながらも、後、退け、半「来年はリーグでいいゲームを見せたい」と感じ、次への手ごたえを感じて、上位の大学に自負を持って臨んだ。今年度のリーグは、開幕戦では積極的な攻撃を筑波大を破ったものの、その勢いを生かすことが出来ず、全員の攻撃力不足が原因となり、新人戦優勝を期待していたが、中盤の失点で敗戦。1勝1敗の成績で、入替戦回避の可能性が薄くなった。リーグ全体を通して、決定的なチャンスがなかったことが、試合運びを苦しめた。

Key Point

法政大とは、春の関東選手権1回戦で対戦し、0-2で敗れている。運動量に勝る法政大が、素早いチェックからボールを支配し、速いパス回しで明治を圧倒した。「今年の法政は強かった……」(8:鈴木康)というイメージは、多くの選手が持っていることだろう。

それに対して明治は、相手に中央突破されて失点を重ねたリーグ戦の反省をもとに、7:浅利とダブルボランチを組んでいた主将の6:賢田をスイーパーに下げ、3-5-2のシステムで臨む。「得点力がないから、点を取られるとキツイ。スイーパーは賢田を1枚余らせて、ディフェンスの穴を埋める」(井澤監督)。センターバックは不動の3:秋定と4:河口のコンビ。法政の長身FW・藤掛を、高さでは見劣りしない河口がどこまで抑えるか。ウイングバックには、右サイドに果敢なくオーバーラップで攻撃が目立つ2:松尾。左サイドには、やはりセンターリングにセンスが光る1年生の14:芹澤。もしくは、入替戦の経験では5:古賀が芽を。中盤では、ボランチの浅利がどれだけ相手の攻撃の芽を摘むことができるか。また、リーグ最終戦(対日体大)で足首を捻挫した10:丸田が、どこまで回復しているか。パラエティに富んだ様々なタイプのパスを出せる丸田がいるのといないのとでは大きく違う。そして、リーグ中はアシスト役に徹した鈴木康の動き、11:山田のスピードある突破が、統率された法政の最終ラインを破れるか。

「法政は、しっかり守ったうえでいい攻撃をしてくる。それに負けられないだけの守りをしたい。固くなる選手もいる。それは思うけど、どうしても(1部に)残してあげたい」(賢田)。2年後、3年後が楽しみな若いチームだけに、平常心で臨みながらも4年生の思いは熱い。

明治大学 VS 法政大学

法政大学

最近4年間の成績

- '93 関東2部リーグ7位(2勝3敗2分)
→入替戦 VS 千葉商科大
3-4で敗退し東京都1部降格
- '94 東京都1部リーグ1位(7勝1分)
→入替戦 VS 千葉商科大
0-0、再試合1-0で関東2部昇格
- '95 関東2部リーグ5位(2勝3敗2分)
- '96 関東2部リーグ2位(4勝2敗1分、
得失点差4による2位)
→入替戦 VS 明治大???

96秋季リーグPLAYBACK

春の覇者である法政大。2年前は東京都リーグに降格していたが、1年で関東2部に復帰。それから2年目の今年という絶好のスタートを切った。苦戦をしながらも、浅いラインからのコンパクトな守備で、ゲームをものにした。レフエンスの要・3:大濱を、オフサイドラインを仕切るディフェンスの要・3:大濱を、出場停止で欠いたことと、「甘えと気の緩み」(岡村監督)が出て、そこまで3連敗の日大に1-4というよもやの大敗。5節も亜細亜に0-3で敗退。「僕の退場から連敗して、責任を感じてる。春は無失点で優勝したけど、秋はどこかに気の緩みがあった」(大濱)。崩れかけた自信は、「僕たちは練習で取り戻す上位を意識しなくなり、6節で引き分けたあとの最終戦(体育学大)では、持てる力をすべてはきき出すかのように4点を奪取した。「春は、何も考えずに実力以上のものが出た。でも、このリーグに関しては7試合トータルで見ても満足できる。東農大が勝っても、負けても」(10:藤掛)。

Key Point

最終戦を終えた3日後、東農大が負けたことによって得失点差による2位、入替戦出場が決まった。難しかっただけに、リーグ戦後の気持ちの入れ替えが難しかったという。しかし本番を直前に控え、4年生を中心に「運よくもらった試合を楽しもう」という雰囲気にもあふれていた。明治大とは春の関東選手権で対戦し、2-0で完勝している。スピード、運動量ともに圧倒した試合で、このあと波に乗って一気に関東選手権優勝、そして総理大臣杯では3位に食い込んだ。しかし、選手たちは「春は参考にならない」(赤池)。「そう簡単に勝たせられるとは思わない。チームの力で、120%を出さないと厳しい」(7:中島)と、過信は微塵もない。

リーグでは、負けた2試合で大量失点を喫してトータル10失点だったが、基本的に守備は安定している。「前からどンドンプレッシャーをかけてくれるので、守りやすい」(大濱)。「サッカーは当たり前前にやればよい。まず、何事にもベストを尽くせ」という岡村監督の指導方針のもと、練習にも授業にも、積極的に臨む姿勢が植えつけられている。それは、試合中にボールを追う姿勢もつながらくるもの。中盤でボールを奪ったと姿勢なら、持ち前のスピードで攻撃にかかる。左サイド・9:永田の個人技と右サイド・7:中島のパスが、チャンスをつくり出す。FWは、スピードの11:尾島とパワーの藤掛の強力2トップ。得点力は、若干法政が上回るか。

今年の目標は、総理大臣杯出場と入替戦出場だったのだという。「目標は達成した。あとは楽しんでやればいい。ただ、悔いのない試合をしよう」(岡村監督)。勝たいたい、勝たなければいけない……そんな悲壮感はない。これが、下部のリーグまで経験し、這い上がった者の強さだろうか。「3年だから、内心1部に上がりたい。でも、今年は4年生が頑張っていて引張ってくれたので、今年の最後の1試合を頑張りたいという気持ち」(中島)。

2部・都県リーグ

東京学芸大 (2部8位)

13:30 KICKOFF

V S

拓殖大学 (都県1位)

関東2部リーグで、自分たちのリズムをつかみきれないまま最下位に低迷してしまった学芸大は、2年ぶりの入替戦。「持ち味を出し切れなかった」(岡田主将)不完全燃焼のリーグから3週間。気持ちの立て直しはできているか? 対する拓殖大は、ついにつらんだ4年ぶりの入替戦。東京都リーグ、関東大会を通して無失点。勝ち進んできた勢いをそのままに、関東リーグに挑む。

日本大学 (2部7位)

V S

13:30 KICKOFF

昨年に続いて2部7位となってしまった日大。昨年は引き分けで何とか関東リーグの座を守った。決定力のなさが招いた成績だが、局面局面のトラップやパスに荒さが目立つ。昨年は2部リーグで引き分けた東海大との対戦となった。東海大は今年、神奈川県リーグで優勝。FW陣のスピードを生かして、1年で関東リーグへの振り返きをねらう。

東海大学 (都県2位)

NEVER . . .

Vol. 2配布のお知らせ

11月24日(日) 古河市立古河サッカー場にて

† 2部・都県 入替戦ガイドのほか

† 1部・2部入替戦(11月23日)の結果詳細

† 今、明かされる都県リーグのしくみ

† 祝 - 卒業!

1・2部各大学4年生進路情報 . . . など

を、予定しております。

古河サッカー場へのご来場を
お待ちしております。

関東大学リーグ70年
記念誌好評発売中!!

70周年を迎えた関東大学サッカーリーグの

記念誌を、当会場で販売しています。

第1回リーグから現在までの記録、登録選手名
をあますところなく網羅しています。

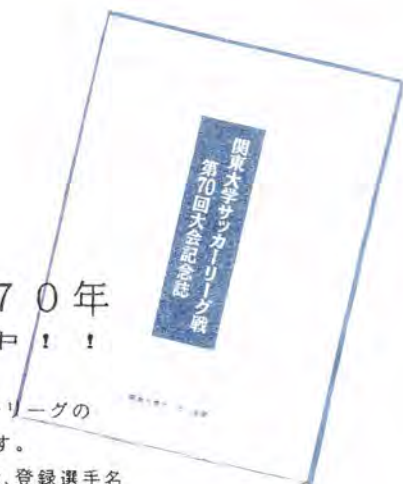
関東大学リーグのすべてがわかる一冊!

現在Jリーグで活躍する井原、名波らOBの
インタビューも掲載。記念にどうぞ。

定価 3,000円

問い合わせ⇒関東大学サッカー連盟

☎03-3378-6355



NEVER

編集、五味亜矢子、松浦千恵美

11月23日(土) 11:30~吉河サッカースタジアム

「やはり、入替戦はそんなに甘くない」と、亜細亜大の坂下監督は試合後に言った。どちらかといえば、自分たちのしたいサッカーをし、主導権を握ったのは日体大。ケガ上がりで久々の出場となった亜細亜のGK、菊地主将も「思ったより前から早いプレッシャーをかけられてしまった」と話す。中盤で深沢・坂本からの展開、数日前にやっと合流した相川、福盛田、内野の果敢な攻撃が見られた。しかし、得点を奪うところまで至らないのが今年の日体の苦しいところ。徐々に亜細亜もペースをつかみ、一進一退の攻防となった。両チームとも決定的なチャンスを何度か迎えるが、前線の選手まで戻る必死な守りで凌ぎ、0-0のままタイムアップとなった。後半30分過ぎには、スタミナに勝る亜細亜が攻め込み、途中出場の赤尾の素早い動きや最前線に出た井川・小島の高さという怖さも見つけた。「そこそこやれる自信もついたし、余裕は持っていけると思う」(日体・佐々木)、「思ったより緊張したけど、次は大丈夫」(亜細亜・菊地)。27日に行われる再試合が、雌雄を決する。

日本体育大学				亜細亜大学			
交代						交代	
島津 一也	1	GK	1	菊地 肇			
和田 晃	2		2	松本 喜彦			
倉尾 健二	18	DF	3	藤塚 直也			
三田 智輝	3		5	小島 徹			
佐々木 心	4		20	金 俊宏			
80分坂本 将貴	17		8	斉藤弘治郎			
福盛田大輔	10	MF	10	田高 将光			
深沢 哲也	7		7	村松 成実			
白倉 裕三	22		11	猪瀬 直樹	67分		
内野慎一郎	9	FW	13	大曾根唯文	74分		
相川 敬二	11		9	黄川田賢司			
サブメンバー							
柳田 祐造	21GR	GK21		吉野 浩基			
野坂 正隆	5DF	FW4		井川 貴司	13		
石井 宏人	6DF	DF31		石井 勇樹			
石上 大輔	12MF	MF14		赤尾 佳宣	11		
藤田 充基	13FW	DF6		照井 俊浩			
後藤田 至	18FW	FW18		鈴木 秀朗			
室井 雅志	25FW	FW15		磯道 直人			

日本体育大学 0
0 0
| 1
0 0
} 0
亜細亜大学

日体VS亜細亜は譲らず再戦へ

明治は昨年到现在に続き1部を死守!

明治大学				法政大学			
交代						交代	
三好 崇博	21	GK	1	赤池 保幸			
松尾 島則	2		2	島田 和也			
秋定 実	3	DF	3	大濱 蒼			
古賀 崇浩	5		4	小澤 逸			
吉利 優司	12		5	川浦 秀明			
賢田 浩明	6		6	福富 泰嗣	80分		
浅利 悟	7	MF	7	中島 隆裕			
鈴木 康夫	8		8	小出 保広	80分		
宮沢 晃行	15		9	永田 真也			
畑尾 行範	9	FW	10	藤掛 大輔			
丸田 宗寛	10		11	尾島 淳一	70分		
サブメンバー							
森 堅	1GR	GK21		野島 典和			
芹澤 泰祐	14DF	DF13		野村 生磨			
小林 俊一	18DF	MF23		渡辺 知生	8		
井上 大輔	16MF	MF17		宮原 友博			
山田 雅士	11FW	MF14		小泉 輝行	6		
合田 薫弘	13FW	FW15		安藤 達也	11		
甲斐 貴洋	19FW	FW18		久野 裕介			

【得点】5分[法]中島、アシスト尾島、53分[明]丸田、66分[明]浅利、72分[明]宮沢、85分[法]中島

11月23日(土) 13:30~吉河サッカースタジアム

「入替戦はやはり、最後はメンタル面の強さが勝負の分かれ目」(明治・井澤監督)。立ち上がりの5分で法政に先制パンチをくらい、法政ののびのびとしたスピーディなサッカーになす術がなかった明治。しかし、取られた時間が早かったこともあってハーフタイムで立て直し、後半は思い切った大きな展開が効を奏し、パスが通って攻撃の形ができ始め、丸田のヘディングシュートを皮切りに浅利がインターセプトから一人で持ち込み、また宮沢の鮮やかなロングシュートも決まり、3点を奪取した。法政は、出足が早くなった明治のオープン攻撃に翻弄された。「前半はこちらが気楽に行けたけれど、後半が相手の本当のサッカー。アグレッシブに來られて、すべて後手後手にまわってしまった。勝負は厳しい」(法政・岡村監督)。入替戦直前の合宿中にセンターバックの河口が負傷。厳しい試合となったが、同じ1年生の吉利がよく穴を埋めた。攻守のバランスをよく保った浅利と、スウィーパーを務めながらもやはり積極的にチームを鼓舞した賢田。4年生の残したものを、来年も守ることだけが後輩に託された責務ではない。そこからのプラスアルファを期待したい。



明治大学 3
3 0
| 1
1 1
} 2
法政大学

入替決定方法

平成8年度関東大学サッカー大会

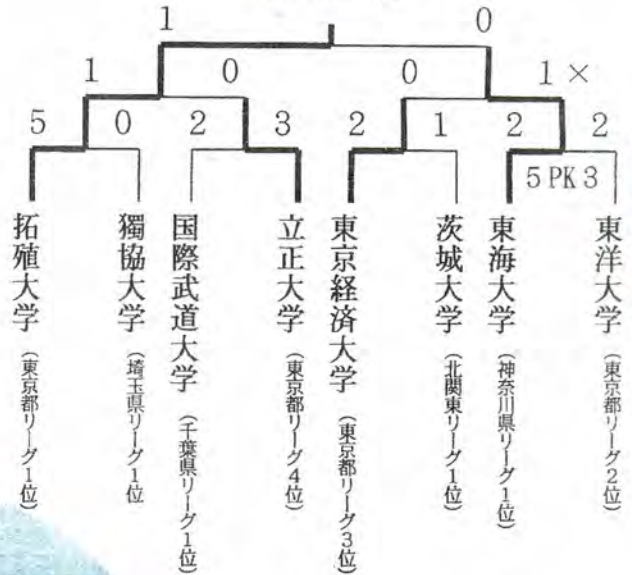
学芸大(関東2部8位) V.S 拓殖大(都京1位)

- <学芸の勝>
学芸は関東2部に拓大は東京都1部にそれぞれ残留
- <拓大の勝>
学芸は東京都1部に降格、拓大は関東2部に昇格
- <引き分け>
再試合(来週中に開催)
- <再試合・再度引き分け>
学芸は関東2部に拓大は東京都1部にそれぞれ残留

日大(関東2部7位) V.S 東海大(都京2位)

- <日大の勝>
日大は関東2部に東海は神奈川県リーグにそれぞれ残留
- <東海の勝>
日大は東京都1部に降格、東海は関東2部に昇格
- <引き分け>
日大は関東2部に東海は神奈川県リーグにそれぞれ残留

拓殖大学



平成8年度東京都大学サッカーリーグ 結果

拓大・東海、入替戦までの道

順位	1部	拓大	東大	横国大	立大	上大	日大	鐘大	勝	引	負	得点	失点	得失点	勝点
1	拓大	○	○	○	○	○	○	○	6	0	0	14	1	+13	18
2	東大	○	○	○	○	○	○	○	4	2	0	18	12	+6	12
3	横国大	○	○	○	○	○	○	○	3	3	0	8	6	+2	9
4	立大	○	○	○	○	○	○	○	3	3	0	12	12	±0	9
5	上大	○	○	○	○	○	○	○	2	4	0	5	8	-3	6
6	日大	○	○	○	○	○	○	○	2	4	0	9	15	-6	6
7	鐘大	○	○	○	○	○	○	○	1	5	0	9	21	-12	3

拓大と東海大は、長い戦いを経てこの日の入替戦に切り着いた。

まず、関東各都県(東京、埼玉、神奈川、千葉、北関東)ごとにリーグ戦が行われる。左の星取表を見てわかるように、拓大は東京都1部リーグに、東海大は神奈川県リーグに所属している。

東京都からは上位4大学、埼玉・神奈川・千葉・北関東からは各県リーグの優勝校が、11月中旬(今年は8、9、16、17日)に行われる関東大学サッカー大会に出場することができる。今年のこの大会の結果は、上記の通り。この大会において1位と2位を決定し、それぞれが『都京リーグ』1位・2位となって、関東リーグ昇格をかけた入替戦への出場権を得、『関東2部リーグ』の8位・7位校とそれぞれ対戦する。

1年時に関東1部から2部へ、そして昨年、3年時に2部から都京(神奈川県)リーグへ降格してしまった東海大の由井は言う、「今年上げてあげないと、来年以降に続くことができる」。ひとたび都京リーグに降格してしまうと、各県リーグを勝ち抜いた後に厳しい関東大会が待っている。拓大はここ3年、挑戦権獲得を目前にした関東大会準決勝で敗退している。関東リーグへの挑戦権を得ること自体が至難の業だ。

関東2部リーグの大会が敗れた場合、日大は初、学芸大は15年ぶりの東京都リーグ降格となる。逆に、拓大と東海が勝った場合、拓大は13年ぶり、東海は2年ぶりに関東2部への昇格となる。今年は日程が少し変わり、挑戦者である拓大と東海は関東大会から1週間での決勝となった。10月の最終週で各県リーグが終わると考えると、まさにリーグ戦の延長戦上にこの入替戦がある。試合が続いていることの疲れはあるだろうが、リーグ戦後に3週間のブランクがある2部リーグ勢に比べて、勢いをそのまま持ち込める強みがある。昨年昇格した亜細亜大が、2部リーグ1年目で優勝を果たした。1部・2部とも、リーグの活性化には新陳代謝が必要だ。亜細亜に続くチームがどんどん関東リーグに参入してほしいものだ。

平成8年度神奈川県大学秋季リーグ1部勝敗表

チーム	東海大	関東大	横国大	神奈大	横市大	文教大	防衛大	勝	引	負	得点	失点	得失点	勝点
東海大	○	○	○	○	○	○	○	5	1	0	16	18	1	
関東大	○	○	○	○	○	○	○	3	1	2	10	3	2	
横国大	○	○	○	○	○	○	○	2	1	3	6	0	5	
神奈大	○	○	○	○	○	○	○	2	3	1	9	1	3	
横市大	○	○	○	○	○	○	○	1	1	4	4	-7	6	
文教大	○	○	○	○	○	○	○	1	1	4	4	-10	7	
防衛大	○	○	○	○	○	○	○	2	2	2	8	-5	4	

最近4年間の成績

- '93 2部リーグ8位(2勝5敗)
→入替戦 VS立正大
1-0で勝利し関東2部残留
- '94 2部リーグ7位(1勝4敗2分)
→入替戦 VS立正大
1-1で引き分け関東2部残留
- '95 2部リーグ4位(2勝2敗3分)
- '96 2部リーグ8位(1勝4敗2分)
→入替戦 VS拓殖大???

最近4年間の成績

- '93 東京都1部リーグ3位(4勝1敗2分)、
関東大会準決勝で敗退
- '94 東京都1部リーグ2位(4勝1敗3分)、
関東大会準決勝で敗退
- '95 東京都1部リーグ2位(4勝1敗1分、
得失点差1による2位)
関東大会準決勝で敗退
- '96 東京都1部リーグ1位(6勝、
関東大会優勝で都県1位)
→入替戦 VS学芸大???

東京学芸大学 VS 拓殖大学

学芸大と拓大は今年の春、練習試合を行っているという。春というのはまだメンバーも決まっていないう頃で、試合自体は参考にはならないが、拓大には「個人的にうまい選手がいるなあとと思った」(学芸・岡田主将)。個々の技術はそこそこしっかりしたものを持っており、その技術を生かした「コンビネーション・サッカー」が今年のテーマだ。東京都リーグでは、6試合で得点が14、失点が1。さらに、関東大会の3試合も無失点で凌ぎ、4：関沼沼を中心に、守備面に不安はない。6：野辺は、左サイドからのオーバーラップも光る。GKの鈴木英は、その反応の速さでスーパーセーブを連発し、玉井監督を始めチームの信頼が厚い。攻撃陣にもタレントが揃っている。都リーグに属しながら関東選抜に選ばれた、主将の10：中森、その強引さと

ガッツでチームの士気を高める9：杉山。中盤の17：影山は、「パスも出せるし、自分も絡んだ攻撃の組み立てができる」(中森)。いつも影山と交代で出場する、7：渡辺の思い切りの良いプレーと「チームのムードを明るくするキャラクター」(玉井監督)、2列目から得点に絡む8：浮田の動きにも注目。関東大会のカベをやっと越えた。「相手を0点で抑えて、接戦をモノにする戦い方はできる」(中森)。優勝の勢いで挑んでくるだけに、学芸大にとっては厳しい試合となるだろう。「リーグは勝てる試合を勝てなかった。先手を取られて、追いつくのに精一杯」(岡田)。リーグ中不振だったFW陣、11：佐藤、14：胡桃沢らに期待がかかる。「自分たちで招いたことだから、自分たちで勝たないといけない」(瀧井監督)。いかに自分たちの力を出し切れるか……敵は自分の中にある。

最近4年間の成績

- '93 2部リーグ1位(4勝2敗1分)
→入替戦 VS順天大
1-1、再試合0-0で2部残留
- '94 2部リーグ1位(6勝1分)
→入替戦 VS日体大
1-1、再試合0-0で2部残留
- '95 2部リーグ7位(1勝3敗3分)
→入替戦 VS東洋大
2-2で引き分け関東2部残留
- '96 2部リーグ7位(2勝4敗1分)
→入替戦 VS東海大???

最近4年間の成績

- '93 関東1部リーグ7位(1勝3敗3分)
→入替戦 VS日体大
0-1で敗退し関東2部降格
- '94 関東2部リーグ3位(3勝3敗1分)
- '95 関東2部リーグ8位(3敗4分)
→入替戦 VS亜細亜大
0-0、再試合0-1で神奈川県リーグへ
- '96 神奈川県リーグ1位(5勝1分、
関東大会準優勝で都県2位)
→入替戦 VS日大???

日本大学 VS 東海大学

日大と東海大という対戦となった。昨年の2部リーグでの対戦は引き分けている。

東海大は今年、神奈川県リーグで5勝1分、失点は2で得点は実に20。0-0の引き分けが1試合あったが、リーグのレベルがそれほど高くなくともあり、大差をつけて勝ってきた。それに比べ、関東大会では非常に苦労した。1回戦は昨年の入替戦で日大と対戦、引き分けて昇格がならなかった東洋大との大一番。PK戦を制して山を越えたと思ったら、入替戦出場を決める試合のプレッシャーからか、東京都リーグ3位の東経大にてこずり延長戦も終了間際になって、攻め込みながらも奪えなかった1点をついにき取って、劇的な勝利。「今年はいろんな試合をしてきた。守備が崩

れなかったことが大きい」(宇野監督)。「今は、上がることにチーム一丸となっている」(由井主将)。安定した守備からサイドのオーバーラップ、そして74：井上らFW陣のスピードを生かす36：寺田からの大きな展開が特徴。天皇杯1回戦でのケガで関東大会を欠場した、神奈川県リーグ得点王10：梁の復帰がカギ。一方の日大は、2部リーグで1、2位の亜細亜と法政から2勝、逆に8位の学芸、6位の専修などに敗れている。自陣に蹴り込んでくるカウンター主体の東海に苦手意識を感じる選手もいるが、「力が接近している方が、緊張感はない」(渡辺敦主将)。決定力不足に泣き、リズムをつかめないまま終わったリーグだったが、元々技術は持っているチーム。渡辺敦がスイーパーに入って守りを固め、攻撃では中盤からのつなぎがカギ。

4 年 生 進 路 情 報

祝 ◎…今後もサッカーを
続けていく予定の選手

★早稲田大学★

兼村 竜介…一般就職
佐々木崇浩…Jリーグ予定
高井 純平…一般就職
高田 栄二…富士通川崎
外池 大亮…ベルマーレ平塚
花村 仁…未定
福岡 耕平…未定
丸山 良明…Jリーグ予定
吉野 勝己…一般就職
渡辺 光輝…柏レイソル

★国士館大学★

浦田 尚希…富士通川崎
今野 章…ジュビロ磐田
佐藤 尽…横浜フリューゲルス
月城 征一…◎
成瀬 久和…未定

★駒澤大学★

※現時点では未発表

★順天堂大学★

※現時点では未定

★中央大学★

斉藤 大輔…ガンバ大阪
笹岡 伸安…未定
平本 大介…NTT関東
村上 一武…NTT九州

★筑波大学★

興津 大三…清水エスパルス
小笠原賢二…未定
斉藤 克幸…◎
佐藤 一樹…横浜フリューゲルス

深井 厚…進学
堀之内 寛…未定
宮崎 広志…教員
吉成 浩司…ガンバ大阪
若井 研治…サンフレッチェ広島

★明治大学★

秋定 実…一般就職
浅利 悟…東京ガス
長田英二郎…未定
鈴木 潤…一般就職
中村玲士朗…未定
齋田 浩明…未定(教員)
松尾 昌則…モンテディオ山形
森 堅…一般就職
吉田 康博…未定

★日本体育大学★

島津 一也…◎
野坂 正隆…未定
深沢 哲也…◎
福盛大輔…未定
藤田 充基…未定

★亜細亜大学★

黄川田賢司…◎
田高 将光…NTT関東
藤塚 直也…◎
松本 喜彦…◎

★法政大学★

赤池 保幸…コンサドーレ札幌
小泉 輝行…横河電機
永田 真也…一般就職
藤掛 大輔…横河電機
福富 泰嗣…一般就職
渡辺 知生…一般就職

★東京農業大学★

福田 和正…未定
門田 誠…未定
杉山 鉄兵…一般就職
鈴木 健介…一般就職
平山 薫…一般就職
横田 恒…◎

★慶應大学★

森 一哉…富士通川崎
吉田 宗弘…柏レイソル
※その他の選手は一般就職予定

★青山学院大学★

大川井公彦…一般就職
加賀見健介…東京ガス
鍵和田猛邦…一般就職
立木 正之…一般就職
富浦 信幸…教員
留場 啓…◎
山崎 隆之…一般就職

★専修大学★

伊藤 琢矢…NTT関東
遠藤 伸明…一般就職
源平 晋也…デンソー
武藤 潤…NTT関東
村山 勝…一般就職

★日本大学★

櫻本 晋…未定(教員)
渋谷 栄祐…一般就職
中村 考宏…◎
古市 雅樹…一般就職
渡辺 敦夫…浦和レッズ

★学芸大学★

※現時点では未定



関東大学リーグ70年 記念誌好評発売中！！

70周年を迎えた関東大学サッカーリーグの
記念誌を、当会場で販売しています。

第1回リーグから現在までの記録、登録選手名
をあますところなく網羅しています。

関東大学リーグのすべてがわかる一冊！

現在Jリーグで活躍する井原、名波らOBの
インタビューも掲載。記念にどうぞ。

定価 3,000円

問い合わせ⇒関東大学サッカー連盟

☎03-3378-6355

第70回関東大学サッカーリーグ戦

1部リーグ



順位	1部	早大	国士大	駒大	順大	中大	筑波大	明大	日体大	勝数	負数	分數	勝点	得点	失点	得失差
1	早稲田大学		○ 1-0	○ 1-0	○ 3-1	○ 1-0	△ 2-2	○ 3-1	○ 4-1	6	0	1	19	15	5	+10
2	国士館大学	● 0-1		● 2-4	○ 3-0	○ 2-0	○ 5-2	○ 4-2	○ 2-1	5	2	0	15	18	10	+8
3	駒澤大学	● 0-1	○ 4-2		● 0-2	○ 1-0	● 1-3	○ 2-0	○ 3-0	4	3	0	12	11	8	+3
4	順天堂大学	● 1-3	● 0-3	○ 2-0		○ 3-1	○ 4-3	△ 1-1	△ 0-0	3	2	2	11	11	11	±0
5	中央大学	● 0-1	● 0-2	● 0-1	● 1-3		○ 2-0	○ 3-2	△ 1-1	2	4	1	7	7	10	-3
6	筑波大学	△ 2-2	● 2-5	○ 3-1	● 3-4	● 0-2		● 1-2	△ 1-1	1	4	2	5	12	17	-5
7	明治大学	● 1-3	● 2-4	● 0-2	△ 1-1	● 2-3	○ 2-1		△ 2-2	1	4	2	5	10	16	-6
8	日本体育大学	● 1-4	● 1-2	● 0-3	△ 0-0	△ 1-1	△ 1-1	△ 2-2		0	3	4	4	6	13	-7

第70回を迎えた関東大学サッカーリーグは、嵐のような悪天候の中、昨年準優勝の筑波大が明治大に敗れるという波乱の幕開け。総理大臣杯優勝の順天堂大も早稲田大に敗戦。どこが勝ってもおかしくない、力の拮抗したリーグ戦は、しかし中盤から上位と下位がはっきりと分かれ始めた。

駒澤大は2試合連続完封発進、筑波大と中央大、日体大は連敗。3節では、昨年優勝の国士館大、早稲田大、駒澤大が首位に並んだ。また、3節までは引き分け試合が1つもなく、勝負がはっきりとつく面白い試合が展開された。

4節でついに駒澤大が順天堂大に敗

れて優勝争いから1歩後退。相変わらず停滞ムードが払拭できなかった筑波大は、5節で駒澤大に初勝利。駒澤大は大きく優勝から遠ざかった。また、早稲田大と国士館大の直接対決は早稲田が制した。6節で国士館大が駒澤大に敗れ、早稲田大が筑波大と引き分けた瞬間、早稲田大の20年ぶりの優勝が決まった。飛び抜けたスターはいないが、4年生を中心によくまとまったチームワークの勝利だった。

入替戦をめぐる攻防は最終節まで持ち越され、筑波大は大敗したものの、明治大と日体大の"痛み分け"に助けられた形となった。

J.R. 東日本カップ '96
第70回関東大学サッカーリーグ戦

2部リーグ



順位	2部	亜大	法大	東農大	慶應大	青学大	専大	日大	東学大	勝数	負数	分數	勝点	得点	失点	得失点差
1	亜細亜大学		○ 3-0	● 1-3	○ 3-0	○ 1-0	△ 1-1	● 0-1	○ 3-1	4	2	1	13	12	6	+6
2	法政大学	● 0-3		○ 3-1	△ 1-1	○ 4-0	○ 2-1	● 1-4	○ 1-0	4	2	1	13	12	10	+2
3	東京農業大学	○ 3-1	● 1-3		○ 2-1	● 0-3	● 3-4	○ 1-0	○ 1-0	4	3	0	12	11	12	-1
4	慶應義塾大学	● 0-3	△ 1-1	● 1-2		● 1-2	○ 4-0	○ 2-0	○ 3-2	3	3	1	10	12	10	+2
5	青山学院大学	● 0-1	● 0-4	○ 3-0	○ 2-1		△ 1-1	△ 1-1	△ 0-0	2	2	3	9	7	8	-1
6	専修大学	△ 1-1	● 1-2	○ 4-3	● 0-4	△ 1-1		○ 1-0	△ 3-3	2	2	3	9	11	14	-3
7	日本大学	○ 1-0	○ 4-1	● 0-1	● 0-2	△ 1-1	● 0-1		● 0-1	2	4	1	7	6	7	-1
8	東京学芸大学	● 1-3	● 0-1	● 0-1	● 2-3	△ 0-0	△ 3-3	○ 1-0		1	4	2	5	7	11	-4

ディフェンディングチャンピオン・専修大の春からの不振で、1部以上に混戦と言われた2部リーグ。新加入の亜細亜大がまず開幕で専修大と引き分け。春のチャンピオン・法政大と、リーグ直前の天皇杯予選優勝の勢いをもち込んだ青学大、そして東農大が連勝、日大と学芸大は連敗でのスタートとなった。

2部は、上位・中位・下位に分かれた。東農大がコンパクトなサッカーで3連勝。慶應大は、リーグ前の東アジアサッカー交流大会で筑波大を破って期待されたが、波に乗り切れず4位にとどまった。青学大は勝てる試合を引

き分けて勝ち点を伸ばせず、日大、学芸大は得点が奪えずに下位を低迷。法政大は、4、5節でつまづいたものの息を吹き返し、大勝で最終節を終えた。専修大は昨年のチームとはカラリと変わって元気がなく、6節でやっと不振の日大から勝ち星を奪い、最終節、優勝のかかった東農大との4-3という壮絶な試合を制し、何とか都県との入替戦を回避した。他大学の合間を縫うように着実に上位にのしあがってきたのが亜細亜大。調子を上げて3節から6節まで4連勝。最終節は敗れたものの東農大の敗戦によって優勝をモノにし、法政大が2位に食い込んだ。